

尾村県議の質問(続き)

2号機再稼働は県の信頼を失墜

尾村県議は、丸山知事に対し、「子ども子育て支援パッケージ」の名で、少人数学級縮小を強行した教訓を忘れてはならないと強調しました。

丸山知事は、子ども医療費助成と放課後児童クラブへの支援を拡充するために、少人数学級編制基準を後退させました。

尾村氏は、この手法は県民の中に対立と分断を招き、教育関係者や保護者から県政への不信が広がったと述べ、「多くの県

原発事故は子どもにも悪影響

尾村県議は、子どもたちは3年に及ぶコロナ危機で傷ついていると前置きした上で、「原発事故に伴う避難生活は、友達や家族と離れ離れになってしまい、子どもの心に深い傷を負わせ、学びと成長に悪影響をもたらすことになる」と述べ、野津建二教育長の認識を質しました。

野津教育長は、原発事故によって、やむなく故郷を離れることとなった中学生が「仲間にあえず、毎晩泣いています。顔を向き合わせ話したいです」などと寄せたメッセージ(福島県復興ビジョン)よりを紹介。そして、「震災・原発事故直後は、震災や原発事故そのものによるショックに加えて、家族や友達といった日常のコミュニケーションで失うことで、さらに子どもたちが不安になり、真剣に向き合わずにはおられません。

学生が安心して学べる環境を

先日、広島の民青同盟の皆さんが取り組んだ労働局への要請行動に同席しました。この間、大学生を中心に128

人から生活実態を聞くアンケートを集め、寄せられた声をもとに最低賃金を時給1500円へと引き上げるよう求める行動です。

アンケートには「時給が上がりれば何をしたいか」との問いに「もっと勉強したい」「バイトを減らして美術の作品製作をしたい」など学びの時間を削ってバイトをしている様子や「野菜が食べたい」「豚肉が食べたい」「病院に行きたい」など命や健康を脅かす深刻な実態も綴られています。高学費と物価高騰が若者たちをいっそう苦しめています。

大平よしのぶ 衆議院議員



アツく やさしく

当日は学生ら5人が参加。まずは作戦会議か

んでいく。これらを通じて『笑顔で暮らせる島根』の実現にも繋げていきたい」と答弁。尾村氏は、

質疑の中で、事前の打ち合わせで私から紹介した「広島県は転出超過(県外から入ってくる人より出ていく人の方が多い)」が全国ワースト1「それは生計費と広島の最低賃金のギャップに一つの理由があるのではないか」ということについて早速参加者の一人の大学生がそのことを正面から担当者にぶつける姿も。要請後はカフェで反省会。若者たち、そして民青同盟の素晴らしさを重ね重ね痛感しました。なんと、彼らがお金やご飯の心配なく安心して学べる環境づくりを前に進めさせねばと誓いました。(2月24日記)

進捗や役割分担について打ち合わせ、「直接聞いてきた声をしっかりと届けよう」と気合い十分の一方、「1週間前から緊張して寝れていない」「僕は1カ月前から」など初々しい姿も。そりやそうです。労働局要請など普通に暮らしているてなかなか経験することではありませんから。そしていざ、準備された会議室に入り、労働局の賃金室長はじめズラツと並ぶ担当者を前に、「大学生たちの衣食住が脅かされています。私も週6〜7日、バイトを自分で学費を払っています」「今の物価に広島島の最低賃金が本当に見合っているとお考えですか」など堂々と訴えました。局の担当者らも

県民の半数以上が反対することを強行して知事がめざすオール島根はつくりえないと反論しました。

大田県議の質問(続き)

畜産、酪農の危機打開は急務

県内の畜産、酪農は危機に直面し酪農や倒産が相次ぎ、現状の生産量確保も危ぶまれています。

大田県議は、酪農家から寄せられた「需要が低迷しているからと、乳価の引き上げも十分に行われておらず、子牛も安い。このままの状況が続けばあと1年もつかどうか」との苦悩の声を紹介。現在、実施されている配合飼料、粗飼料高騰に対応する支援事業では不十分であり、緊急かつ大胆な支援策を講じるよう求めました。

西村秀樹農林水産部長は、飼料価格の高騰が顕著になった2022年1

は大きかったものと思う」との認識を示しました。

月以降、県内では80戸ある酪農家のうち9戸が廃業となったと報告し、「国の対策に加え、飼料購入費の支援と低利の運転資金の融資を1年間継続する事業(県の23年度当初予算)を活用して経営を継続してもらいたい」と答弁しました。

大田氏は、県として飼料価格高騰分の全額補填を国に求めることも要求。西村部長は「安定的に酪農経営を継続していくためには、コスト上昇に見合った価格形成がなされていくことも重要。適切な価格で取引がなされるよう進めてもらいたい」と答えました。

教職員の長時間労働改善を

大田県議は、小中学校の教職員からの「英語の専科で配置された教員が担任を持つている」とにかく忙しすぎて余裕がない。人を配置しなければ、教員の多忙は解消できない」などの声を紹介。その上で、長時間労働の是正と、ゆとりある教育の推進のために教員定数の増員こそ求められていると強調しました。

子育て支援の充実を

大田県議は、群馬県が子どもの医療費無償化を所得制限なしで高校3年生まで拡充する方針を打ち出したことなどを示し、「島根県でも、子どもの医療費助成の拡充、保育料・学校給食費の無償化、給付制奨学金の拡充、義務教育の教材費助成など、子育て支援のさらなる充実に向け、積極的な対応を」と子育て世代の強い願いを届けました。

丸山知事は「地方自治体の財政力に左右されることなく、国全体で全国的に一律に実施していくベースがあるべき」と述べ、今後引き続き、積極的に国に要望していくと答えました。

党島根県委員会Facebook、Twitterのフォローを

日本共産党島根県委員会は、FacebookページとTwitterを開発しています。島根県委員会からのお知らせや県内の地方議員の活動などをアップしています。スマホで下記のQRコードを読み込んで、ぜひフォローしてください。

島根県委員会 Facebook ページ →



島根県委員会 Twitter →

